

# 2016年度 松蔭中学校 高等学校 学校自己評価報告

松蔭中学校 松蔭高等学校

これは分掌（各学年担任団、校務担当各部）ごとに下記要領で実施した「2016年度学校自己評価」を報告するものです。

- ① 自己評価は次の13領域（部署）で実施した。
- ・各学年団（中学1年～高校3年の6学年）
  - ・校務分掌各部（教務部、生徒部、宗教部、総務部、進路指導部、入試広報室、読書運動委員会）
- ② 評価法
- ・年度初めに、評価対象、評価項目、実践目標等を設定した。
  - ・年度末に、実践内容について評価した。
  - ・評価は、A（よくできた）、B（できた）、C（あまりできなかった）、D（できなかった）の4段階とした。
- ③ 改善・向上策 ・上記評価に基づき、改善策・向上策を検討し記載した。
- 例 学校自己評価（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

## 中学1年

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
	学年の目標	学年の目標の理解と実践	学年目標を「Sense of Wonder」とした。目標設定の理由を説明し、具体的に実践させる。	1. オリエンテーションキャンプ・学年集会・学年だより・各クラスでのHR等で取り上げ、実践を促すとともに、啓発活動を行う。 2. 学年の掲示板や教室に掲示し、常に意識できるよう心がける。	B	さまざまな行事を企画する場合には、目標と照らし合わせて検討したことは良かったが、日常的にはなかなかうまく取り組めなかった。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度初めに方針の確認をする。	1. 教師間で常に情報を交換・相談し、相互に共通の理解を持って生徒指導にあたるようにする。 2. 週に1度は生徒の情報を交換できる時間を確保する。	B	生徒情報の交換は、週に1回設定して実施した。
	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学の授業形態に慣れさせ、自主的な学習を促す。	1. 「学習のとりくみ」を作成、配布。 2. 授業の準備や宿題、提出物など、学校生活にきちんと取り組めるよう「スコラライト」を持たせる。 3. 朝礼前の5分を「学びのとき」として主に読書の時間とする。 4. 各考査前に学習範囲表を配布し、計画的な学習の取り組みを考えさせる。 5. 各考査後に成績不振の生徒に対して補い、追試、補習を実施する。また、希望者対象の学習講座も実施する。 6. 全員受験の実力テストと希望者による実力テストを学期ごとに実施する。 7. 百人一首大会や聖歌コンクール・レシテーションコンテストを生徒の意欲引き出すために企画する。	A	スコラライトは週に1回確認しているが、なかなかうまく活用できない生徒もいる。宿題忘れ、時間管理には有効である。学びの時は、3学期、聖歌や英検・漢検対策とした。臨機応変に変更して良かった。 補い生徒の補習は学年一体となって取り組んだ。補い以外にも英語教室・ECC英会話・英検対策等の講座もあり、充実していた。 百人一首やレシテーション・聖歌コンクールも非常によく頑張っており、良い企画である。
	総合学習	中学1年生では以下の項目に取り組んだ。 1. マナー 2. キャリア	1. 礼儀作法やマナーを実践的に学び、学校生活や社会における人間関係に活かす。 2. 他者と協力して問題に取り組み、課題を達成する。 3. 自分が所属している社会の特色を学び、社会の一員としての自覚を持つ。	1. 礼儀作用について小笠原流礼法の講師の先生から実践的に学ぶとともに、公共の場や学校生活でのマナーやその大切さを、プリントを使って学習する。 3学期には「和食の作法講習会」開催する。 2. 中学1年生である自分自身を見つめ、学校生活の目標を立てるとともに、これからの学校生活でどのような人間関係を築いていくかを考える。また、将来挑戦してみたい活動や就きたい職業などについて考えるきっかけとして、夏休みには身近な人への「お仕事インタビュー」を行い、2学期に各クラスで発表する。	A	小笠原流礼法のマナー講習は、生徒にとっては良い企画である。内容は厳選されてきており、計7回の講習であったが充実していたようだ。和食の作法講習会も生徒はしっかり頑張っていた。継続するといいたいだろう。夏休みの課題「お仕事インタビュー」も上手てまとめられており良い内容である。また、急遽学校案内のお手伝いとして、研修・リハーサルを実施し、本番でも活躍した。今後も継続していけると良いと思う。
	行事	1. オリエンテーションキャンプ 2. 夏のキャンプ	1. 松蔭を知り、松蔭生としての自覚を持たせ、友人や教師との交流をはかる。 2. 自然に親しみ、集団生活の中で規律を守り、協力しながら行動させ	1. 友だち作りと先生との交流を図るため各種プログラムを用意し、多くの先生方の協力の下で実施する。 2. 集団での規則正しい生活とルールを守ることの大切さを伝えた。卒業生のキャンプリーダーのもと、友人と協力し		オリエンテーションキャンプは例年通り全教員で実施した。そろそろ内容・形式も考える時期に来ているかもしれない。 遠足は摩耶山であったが雨で途中下山した。 ハチ高原での夏キャンプは、エ

		3. 春の遠足 秋の校外学習 冬の校外学習	る。 3. 自然に親しみ、友人と交流を深める。校外学習では音楽鑑賞等を通じて教科で得た知識を深める。	てことを成し遂げる充実感を知ってもらうようにする。 3. 春の遠足では摩耶山に登り、自然の中で友人とふれあう機会を持った。秋の校外学習、「和食マナー講習会」(須磨寿楼にて)では小笠原流礼法を実践的に学んだ。冬の校外学習では、「わくわくオーケストラ」とセットで考える。	A	クササイズを入れて各班で協力してハチ高原の魅力を紹介した。今までにない良い企画であった。秋はイングリッシュビレッジに民博と思い思い学習に費やした。冬はオーケストラを鑑賞し、マナーの集大成「和食の作法」を学んだ。どれも良い企画で充実していた。
--	--	-----------------------------	---	--	---	--

## 中学2年

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学2年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	「愛」	1. 目標は教室と廊下に掲示。また、学年集会、朝終礼、HR等の機会や、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促す。 2. 身近な友人と過ごす際にはもちろんのこと、学年の仲間と共に学校生活を送っていることを意識させ、目標を礎にした問題解決を促す。	B	2. 教員は日常的な働きかけ、見守りを続けた。まだまだ幼い面があるため、自分本位な言動により、生徒間で友人関係上の問題が起こることがあるため、しっかりと目標が体现できるように指導を続けたい。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度当初に指導方針を明確にし、具体的な体制を確認する。	1. どのような取り組みにも、学年の教員全員が協力して取り組む。 2. 生徒の様子を常に見守り、生徒としっかりと関わる。 3. 学年の教員の間で、常に生徒の情報を交換し合う。 4. クラスによって指導に違いが出ないように、基準の確認を怠らない。 5. 学校と保護者の信頼関係を深める。気になることは連絡し合える体制を作る。	B	2. 生徒一人一人と教員との信頼関係が深まっていくように、現状を良しとせず、しっかりと関わっていく。 5. 保護者が来校する機会が少なかったため、次年度は顔の見える関わりが増えるよう機会を増やす。
	学習指導	中学2年生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学2年で必要な学力を定着させ、学習意欲の継続・向上を促す。	1. 朝礼前の5分を「学びのとき」とする。 5教科の学習を授業や試験に合わせて計画的に行う。 2. 定期考査後に、成績の芳しくない生徒に対しての「補い」を実施する。 3. 長期休暇中に講習を行い、学習意欲の高い生徒にも対応する。 4. 全員受験、希望者受験の実力考査を、学期に1回ずつ実施し、解説も行う。 5. 百人一首カルタ大会やレシテーションコンテストを実施し、意欲を引き出す。 6. 面談等で、個々に応じたきめ細かい指導を行う。	A	3. .講習の参加者が減少してきているため、より多くの生徒が受講するよう適切な改良と工夫をしていく。 4. .希望者実力考査の参加者が減少してきているため、より多くの生徒が受験するようテストの種類の検討をし、生徒への働きかけをしていく。 5. 百人一首大会は大変好評であり、次年度の開催も検討する。
	総合学習	「いのち」の学習	生や死について深く考えること、すべての命がかげがえのないものであることを認識すること、自分の進路・生き方を具体的に考えることを目標に、「いのち」の学習に取り組ませる。	1. 1学期は「生(生まれる)」、2学期は「死」、3学期は「生き方」というテーマを設定して、親しみやすい教材を用いて取り組む。 2. 体験学習などを十分に活用し理解させる。「赤ちゃん先生」に来ていただき、赤ちゃんに触れ、ママ講師の話聞く。赤ちゃんへ手作りおもちゃを作成する。 3. 感想文や動画によるプレゼンテーションなどの課題に意欲的に取り組めるように促す。 4. 個人の考えを持ち、さらにグループで考えを共有することからテーマを深めさせる。	A	生徒たちは、「生」「死」「生き方」について、素直な気持ちで教材を受け止め、中学2年生として感じてほしいこと、考えてほしいことによく取り組んだと感じられる。「赤ちゃん先生ようこそ」は、実際に赤ちゃんに触れあうことから「いのち」の温かさや大切さを感じ、「いのち」を育む女性についての考察もでき有効だった。
	学年行事	1. 春の遠足 2. 海洋キャンプ 3. 秋の校外学習 4. 作文コンクール	生徒の目標 1. 自然のすばらしさ、自然の大切さを学ぶ。 2. 協調性を育て、海洋スポーツの楽しさ、自然のすばらしさを知る。 3. 伝統工芸やものづくりのすばらしさに触れる。 4. 文章を書くことに慣れる。	1. 六甲山に登り、修法ケ原、再度公園で昼食、諏訪神社で解散する。(実際は悪天候のため、貯水池まで行き、休息の後、新神戸に戻り解散した。) 2. 3種類の海洋スポーツに親しむ。生活班ごとの食事や清掃の共同作業に取り組む。 3. 「匠」の指導のもと、伝統工芸を含む8種のプログラムより選択し、本格的な道具を用いて、集中してものづくりを行う。	A	生徒たちは、友人と楽しく過ごす体験をし、協力してひとつのことをやり遂げる難しさと喜びを知ることができた。学校生活の中で、学年行事は日常とは異なる環境、状況で新たなことを学ぶチャンスであるため、今後もより充実した内容となるよう質を高める努力をしていく。一方で、日常の学習のリズムを大切にできるよう学習と行事のバランスに注意

				4. 「お菓子とわたし」作文コンテストに学年全員で応募する。		する視点を持つようにする。
--	--	--	--	--------------------------------	--	---------------

### 中学3年

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学	学年の目標	学年の目標の理解と実践	①「思いやる心 伝えることば〈始動〉」 ②「魔女修行！」 - 1. 基本的な良い生活習慣の確立 -  ②の「魔女修行」という言葉は、生徒達が中二の時に読んだ梨木香歩さんの著作から拝借した。魔女修行は精神を鍛えること。その第一歩として、早寝早起きを実行し、食事をしっかりと、よく運動し、規則正しい生活をする事、つまり「基本的な良い生活習慣の確立」が必須。生徒達にも、精神を鍛え、自ら行動し、満足できる結果を得、自信を持ち、心に余裕を感じ、他を思いやってほしいと考えて、この目標を設定した。	1. 目標は教室と廊下に掲示。また、学年集会、朝終礼、HR等の機会や、面談、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促す。 2. 友人関係上の問題が生じ、生徒達だけで解決できない場合、担任を中心とした学年の教員も入って、解決を目指す。その際にも、思いやりや言葉の選び方の大切さについて考えさせる。 3. 「基本的な良い生活習慣の確立」のためにも、スケジュール帳の活用方法を紹介し、有効利用を促す。また、例えば考査の範囲等もスケジュール等へ書き込ませてもらえるよう、教科担当者に依頼する。 4. 宿題や小テスト対策に熱心に取り組ませる。日常的に、予習、復習をさせる。発展的な自主学习にも取り組ませる。	1 B  2 B  3 B  4 D	実践目標の①について、生徒達が実践できる場面が増えてきた。今後も見守りを続け、必要な場合にはこれまで同様の指導を行いたい。  実践目標の②について。生徒達が学習その他の活動に積極的に取り組むために必要な、対人関係や精神面・身体面の安定という基盤を築くためにも「基本的な良い生活習慣の確立」と呼びかけ続けた。中3も終わろうとしている今、人間的な深まりを感じさせる生徒達だが、「基本的な良い生活習慣」のうちの「学習習慣」は、特に、確立させられたとは言い難い状況である。対策等については、「学習指導」の欄に。
3年	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度当初に指導方針を明確にし、具体的な体制を確認する。	1. どのような取り組みにも、学年の教員全員が一丸となって取り組む。 2. 生徒の動向に常に気を配り、生徒と密に話す。 3. 学年の教員の間で、常に生徒の情報を交換し合う。 4. クラスによって指導に違いが出ないように、基準の確認を怠らない。 5. 学校と保護者、保護者間の連携を深める。気になることは連絡し合える体制を作る。	1~4 A       5 B	1~4について。「学年の教員全員が一丸となって」という目標は、達せられた。  5について。努力を続けている。連携をますます深めるために、密なやり取りを続けたい。
	学習指導	中学3年生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学3年で必要な学力を定着させ、学習意欲の継続・向上を促す。	1. 朝礼前の5分を「学びのとき」とする。 2. 「スコラライト」の活用を促し、学習習慣を確立させる。 3. 定期考査後に、成績の芳しくない生徒に対しての「補い」を実施する。 4. 長期休暇中に講習を行い、学習意欲の高い生徒にも対応する。 5. 全員受験、希望者受験の実力考査を学期に1回ずつ実施し、解説も行う。 6. レシテーションコンテストを実施し、意欲を引き出す。 7. 英検・TOEIC、漢検という目標に向かって、日常的、継続的な学習に取り組ませる。 8. 「公立高校入試問題チャレンジ」と称する取り組みに挑ませる。国数英理社の過去の公立高校入試問題を解いて自分の実力を把握させ、学習意欲を引き出す。 9. 面談等で、個々に応じたきめ細かい指導を行い、生徒一人一人のモチベーションや持続力が高まるよう、働きかける。	1 B 2 C 3 B 4~7 A      8 B    9 B	中1時から継続して設定している「学びのとき」は、落ち着いて授業に入るためにも有効であった。しかし、授業をもっと集中して受けさせるための工夫、自宅学習の習慣をつけさせるための工夫が、さらに必要である。保護者の方々のご協力ももっと得たい。また今年度は、生徒一人一人のモチベーションを高めるために、8の取り組みを試みた。刺激にはなったが、発奮して勉強し始めたという生徒は、まだまだ少ない。「毎日こつこつ勉強する生徒、勉強することが楽しいと思える生徒を育てる」という大きな目標を掲げて、努力、工夫を続けたいと思う。

総合学習	「平和」についての学習 「進路」についての学習	戦争体験を聴く会や被爆者講演会、修学旅行で訪れる長崎での碑めぐりや資料館見学などを通して、「平和」について考えさせる。  高校生活や学習について考えさせることで、各自の「進路」についての意識を向上させる。	1. 1、2学期は主に「平和」、3学期は「進路」というテーマを設定して、取り組む。 2. 講演会、体験学習などを十分に活用し、理解させる。 「平和」戦争体験を聴く会、被爆者講演会、九州修学旅行（長崎での講演会、碑めぐり、資料館見学）。 「進路」職業体験、進路ライブ。 3. 感想文やレポート作成、発表などの課題に意欲的に取り組めるよう、促す。 「平和」学習のまとめとして、全員に「平和への提言」を作成させ、各クラスで発表会を行う。講堂で、クラス代表による発表会も実施する。また、優秀作をまとめた冊子も発行する。	A	体験学習や、体験した方のお話を伺うことは、総合学習の目標の達成のためにも、生徒達の人間的な成長のためにも、たいへん有効であった。また、感想文やレポートの作成、発表は、考えを深め、整理するために役立ち、たいへん良い経験である。継続が望まれる。
学年行事	1.春の遠足  2.九州への修学旅行  3.合唱コンクール	生徒の目標 1.自然のすばらしさを学び、友人関係を深める。 2.平和について学び、九州の自然や風土、歴史に触れる。 友人関係を深める。 3.「アメージング・グレイス」三部合唱を練習し、協力して音楽を作り上げる楽しさを知る。合唱コンクール、中学卒業式で、良い演奏を披露する。	1. 六甲山に登り、神戸市立森林植物園で昼食、谷上駅で解散する。 2. 長崎で平和について学び、タクシーによる班別研修、雲仙普賢岳災害記念館見学等を行う。また、ハウステンボスを観光し、太宰府天満宮に参拝する。 3.音楽科の指導のもと、「アメージング・グレイス」三部合唱を練習する。朝の学びのとき等も練習に充てる。合唱コンクールではクラスごとの良い演奏を聴き合い、最終的には、中学卒業式で、学年全員によるさらに良い演奏を披露することが目標である。	A	1.春の遠足は、小雨の中、行く先をハーブ園に変えて実施した。 2. 良い旅行であったが、スケジュールに時間等の余裕がなかったことが残念である。行程の見直しが必要。 また、今年度から修学旅行が秋に行われることになり、たいへん忙しくなった。生徒達は、旅行の前後に行われた体育祭、バザーも楽しんだが、日程に余裕がないため教員主導にならざるを得ない。生徒達の自主性を損なわないためにも、2学期の行事の精選が必要だと思われる。 3.良いコンクールとなった。

## 高校1年

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校1年	学年目標	学年目標の徹底	1. 中1からの継続目標として、「よく学び 良く生きよ」「言葉、行動、愛、信頼、純粹さの点で人々の模範となりなさい」という目標設定し、常に心がけるようにさせる。	1. 標語を廊下の掲示板および教室に掲示。 2. 行事や学年集会等で目標を示し、生徒への意識付けを行った。	B	今後は生徒に将来の進路を確保することを考慮して行かなければならない。中3からの目標については、意識にはあるものの、さらに行動を促すべく声掛けなり環境づくりなりが必要である。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	1. 学校の規定を遵守させる。	1. 朝、終礼総合学習などを通して身近な生徒の状態を把握、常に生徒の情報を共有し、共通理解のもと指導を行うようにした。 2. 保護者との連絡を密にして、家庭の協力を得ながら指導することを心がけた。	B	随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にし、共通理解をふかめ、協力しながら指導に当たることが出来た。規定を順守させるという面から言えば、まだまだ根気強い指導が必要である。
	学習指導	学習意欲の向上と学力の定着	1. 授業を大切にすることを徹底させる。 2. 自宅学習の習慣を身につけて基礎学力をつける。	1. 個人面談などで、各自の学習状況だけでなく、個人的な悩みや相談も根気強く話を聞き、それを把握し、改善点や新たな取り組みなどについて、指導した。 2. 英検取得を目的とした、土曜日午前中開講のECC英検対策講座に、英語特別クラスは2級取得者以外、全員参加した。(その他の生徒は、希望制) 3. 朝礼前の「朝学」で、各自の課題を見つけて取り組んだ。 4. 長期休暇中に英語・数学・国語の希望者補習講座を実施した。 5. 成績不振者を対象に追試・補いの授業を実施。	B	生徒たちへの意識付けやそれを必要とするタイミング・内容を常に確認、改善しながら進めていった。枠を作るだけでなく、面談等の機会にも呼びかけたこともあり、生徒たちは積極的に取り組んでいた。より一層、生徒の学習意欲を高める機会を増やしていきたい。

総合学習	進路学習	自分の適性を知り、将来の生き方を考え、自分の進むべき道を選択できるようにいろいろな方面からアプローチする。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高2の選択説明会までに大学入試の説明などを行った。</li> <li>2. 学部・学科ガイダンスを実施して、大学での研究内容を聞いた。</li> <li>3. 「生き方」について、各担任や学年の教員から話を聞いた。</li> <li>4. 自分の意見を他の人に伝える練習のため話し合う時間を持った。</li> <li>5. 来年度の校内予備校募集の呼びかけの一つとして、教育講演会（校内予備校仲介業者・外部講師）を実施した。</li> <li>6. 他学年が実施した校内入試別説明会に参加した。</li> </ol>	A	自分の意見を意識化し、他者に伝える訓練が不足していると感じる。が、生徒は、真剣な態度で各授業に臨んでおり、それぞれに何らかの進路についての意識付けができた。
	環境学習	BEP（ブルーアースプロジェクト）を通して、環境についての様々な観点からの考察や行動について学んだ。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. BEPに積極的に参加して、成果を発表して、その活動報告を聞き、学ぶ。</li> <li>2. 各講演会を聴き、レポートを作成したり、学習を行った。</li> </ol>	A	夏休みや2学期に、エコ活動の一環として、パンの作成や、サンゴの保護を訴える店舗活動にも参加した。
学年行事	春の遠足  校外学習（奈良）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 六甲カンツリーハウスに行き、自然にふれ、体力をつける。</li> <li>2. 奈良の名所めぐり、歴史にふれ、文化への関心を高める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然を感じ、友達と協力して登った。</li> <li>2. 各クラス、グループに分かれて奈良を東大寺から春日大社、興福寺のコースに分かれて、見学をした。</li> </ol>	A	春の遠足は、適当なコースであったが雨天のため途中で中止した。 奈良の観光名所を回った。 他に正倉院展や若草山の山麓を訪ねた。

## 高校2年

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
	学年目標	学年目標の徹底	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「人にやさしく」を、常に心がけるようにさせる。</li> <li>2. 高2の目標として、「自分にきびしく」という目標も設定した。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学年の掲示板と各クラスの教室に掲示し、意識付けをはかった。</li> <li>2. 高校2年生として、自覚を持ち、なすべきことをすぐに行動に移すように促した。</li> </ol>	B	・それなりの意識づけはできたとと思われる。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の規定を遵守させる。年度初めに方針の確認を行い、各クラス共通の認識をもって対応をする。</li> <li>2. 機会をみつけて、保護者との連絡を密に取りあう。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学期に1度の「クラス報告会」で、常に生徒の情報を共有し、共通理解のもと指導を行うようにした。</li> <li>2. 保護者との連絡を密にして、家庭の協力を得ながら指導することを心がけた。</li> </ol>	B	・職員室で、随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にするとともに、学期に1度クラス報告会の時間を持ち、共通認識を持って生徒にあたるよう心がけた。
	学習指導	目標を持たせ、学習意欲の向上と学力の定着	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業を大切にすることを徹底させる。</li> <li>2. 自宅学習の習慣を身につけて基礎学力をつける。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人面談などで、各自の学習状況だけでなく、個人的な悩みや相談も根気強く話を聞き、それを把握し、改善点や新たな取り組みなどについて、指導した。</li> <li>2. 4月から年間18回の校内予備校を実施。（現代文・英語）</li> <li>3. 朝礼前の「学びのとき」で、各自の課題に取り組んだ。</li> <li>4. 考査1週間前に考査対策として「放課後!!学習塾」を開塾。</li> <li>5. 長期休暇中に進学補習を実施。</li> <li>6. 希望者対象に「夢ナビ」ツアーを実施。</li> <li>7. 8時から8時30分まで「0時間目」（英語・地歴・国語・数学）を実施。</li> <li>8. 希望者対象に立教大学キャンパス見学ツアーを実施。</li> <li>9. 実力考査の追加科目や希望者マーク模試を実施。</li> </ol>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内予備校の出欠を常に把握し、保護者へも出欠の確認を行った。</li> <li>・早朝や放課後、長期休暇を使って学習をするための機会を増やすことができた。</li> <li>・入試に向けて、学習に取り組む意識を高めさせ、一人一人が具体的な目標を持ち始めた。</li> </ul>
	総合学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境（震災）学習</li> <li>2. 修学旅行（東北）</li> <li>3. 進路学習</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「震災」の教訓を生かし、自然環境や社会環境との関わりを視点に据えた防災教育を推進することによって、共生社会における人間として</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「震災」をテーマに学習をすすめた。講演会や修学旅行中での震災学習などで話を聴き、またそこから感じたことなどをまとめる時間も持った。</li> <li>2. 夏休みに各自で、東北の郷土に関するレポートと震災に関するレポートを</li> </ol>	A	・震災学習のプログラムは、よく順序を練ったものとなった。生徒たちの思考を促す効果があったと思われる。生徒は真面目に、熱心に取り組んでいた。

			<p>の在り方・生き方を考えさせる。</p> <p>2. 10月の修学旅行について積極的に学び準備して実行する。</p> <p>3. 入試に向けた知識や情報を身につけさせる。</p>	<p>作成した。</p> <p>3. 修学旅行後に各自でホワイトブック(個人の旅行アルバム)を作成し、優秀作を展示した。</p> <p>4. 「進路ニュース」を発行し、進路に関する情報を伝えられるようにした。</p> <p>5. 3学期に志望理由書対策講座とリライト対策講演会を実施。</p> <p>6. 3学期に校内入試別説明会を4回実施。</p> <p>①松蔭特薦 ②指定校推薦 ③AO・公募推薦 ④センター・一般入試</p>		<p>・進路学習と両方に取り組むには時間数が不足している感がある。</p> <p>・ホワイトブックの展示とともに投票を行い、優秀者上位3名を選出した。</p>
	学年行事	遠足(須磨山上遊園)	須磨山上遊園に行き、自然にふれ、体力をつける。	JR 須磨駅に集合し、須磨山園を目指して歩いていたが、雨が強くなり中止した。	B	・歩く距離・行程の厳しさなどは適当であったが、目的地の選定には検討が必要だと思われる。

## 高校3年

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高 校  3 年	学年目標	学年目標の徹底	中1からの継続目標である「自他を大切に作る人であれ」を高3での学年目標とする。	<p>1. 学年の掲示板と各クラスの教室に掲示し、意識付けをはかった。</p> <p>2. 学年集会等機会あるごとにこの言葉の意味を伝え、それぞれが目標を達成できるよう促した。</p>	A	定着したと思われる。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	学校の規定を遵守させる。	<p>1. 朝会を行い情報共有した。</p> <p>2. 特に配慮すべき点などを確認し合うため月1回学年教師ミーティングを行った。</p> <p>3. 常に保護者との連絡を密にして、家庭の協力も得ながら指導した。</p>	B	随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にし、共通理解を深めた。
	学習指導	学力の向上	大学入試に対応できる力をつけさせるためのプログラムを授業外にも用意し、個々の進路に応じて活用できるようにする。	<p>1. 4月から年間19回の校内予備校(現代文・英語)を実施した。</p> <p>2. 夏休み・冬休みにそれぞれ、夏期講習・冬期講習を実施した。</p> <p>3. 授業のない3学期に進学補習を実施した。</p> <p>4. 1学期当初より平日の放課後および土曜日にも進学補習を実施。特に2学期に関しては「受験生ゾーン」を作り、受験生意識を高めると共に、各受験先に応じた講座を実施した。</p>	A	殊に進学補習に関しては学年団以外の教師にも協力を求め、多くの講座を実施することができた。が、高3だけに限らずもっと長期的な計画に基づく補習プログラムを考えてゆく必要がある。
	進路指導	目標の設定、学力の向上と進路実現	自分の適性を知り、進路目標を定めて準備し努力させる。	<p>1. 進路説明会など 4月には、年間のスケジュールを保護者と生徒に伝え、6・9月にも実施した。9・12月にはセンター試験説明会を実施した。</p> <p>2. 進路調査 4・7・9月に実施した。その結果をもとに、複数回個人面談を実施し、それぞれの希望進路や学習状況を把握し、改善点などの指導をした。夏休みには保護者との三者面談を実施した。</p> <p>3. 実力考査 4・6・9月の3回実施し、国英以外の科目の試験も実施した。10月には希望者対象の実力考査を実施した。</p> <p>4. 校内オープンキャンパス(大学等入試説明会) 高校内で、5・6月に松蔭大の学科説明会と外部大学・短大・専門学校の入試説明会を実施した。</p> <p>5. 小論文指導 入試に小論文が必要な生徒の調査をし、学年の教員で分担を決め指導した。5月には希望者対象に学研の小論文模試を実施した。</p> <p>6. 指定校推薦決定者への指導 10月の希望者対象実力考査の受験およ</p>	B	3年間を見通したより長期的な受験指導をする必要がある。

				び本人の興味必要性にあわせた資格検定（主に語学）の受験を必須とし、定期的に学習の進捗状況・学習物を提出させた。		
	総合学習	主体的に考え判断し伝える力を養う	「文章の書き方のルールを知り、自分の気持ちを上手に他者に伝える」「いのち・平和・生き方などの問題に対して、自分の考えを持つとともに、他者の意見を尊重できる誠実さを持つ」の二つを身につけさせる。	1. 1学期に論文の書き方講座を実施。 2. 過去に学んだ5つのテーマのふり返り（特に「いのち」「平和」「生き方」の三つについて）。 3. 中2で観た「いのち」に関わる映像を再び視聴。 4. 「平和」「生き方」に関わる講演会を実施。 5. 三つのテーマから一つを選び、自分の考えを文章化。 6. 学年を小グループに分け、自分の考えを他の人とシェアする作業を行う。 7. 意見文を完成させ、文集を作成。 8. 3学期の総合全体会で優秀作品を発表。	B	講座での学習内容を意見文に結びつけるには、2学期にも書き方講座的なものがあってもよい。
	学年行事	遠足（ハーブ園）	自然に触れ、友人との親交を深めるように指導する。	新神戸で集合しハーブ園までの散策を行う予定であったが、天候不良のため途中下山となる。	B	実施の有無の判断は難しいが、下見で雨天の場合のルートも複数確認しておいたのは結果的に役立った。
	3学期プログラム	・進学補習 ・体験プログラム ・Blue Earth Project	各自の希望に合わせたプログラムに参加し、目標の達成を目指させる。	1. 進路決定者は「Blue Earth Project (BEP)」と呼ばれるプログラムに参加するか、体験プログラムに最低4日間参加するかを選択。受験継続者はセンター試験をはじめ、一般入試に向けて各自の進路に合わせた進学補習を受講。 2. 進路決定者の中から希望者をつのり、「女子高生が社会を変える」をキャッチフレーズに、環境問題や東北応援の活動に取り組むBEPを行った。今年のテーマは、「美しいサンゴを次世代に残す」。	A	各種プログラムには、多くの生徒が真面目に取り組んでいた。進学補習では、各自の進路に向けて、前向きな学習姿勢が見られた。 BEPでは、57人のメンバーが環境問題へのさまざまな取り組みを企画・実行し、大きな成果を上げた。

## 教務部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	次年度への改善策・向上策
教 務 部	教育課程	教育課程の作成	1. 基礎的な学力を身につける。	わかりやすい授業をめざすだけでなく、小テストの繰り返し、放課後の英語教室、定期考査後の補講・補習などによって、基礎学力の修得に力を入れた。	B	定期考査後の補い等、授業以外でも、基礎学力定着のためのさまざまな取組が充実している。引き続き授業改善に努めると共に、授業外の講座等についても改善を進める。
			2. 生徒の学力や進路に応じた、きめ細かい指導を行う。	英語・数学などでグレード別クラスを編成した。また、選択科目を設置して進路に応じた指導を行った。土曜日には、中学1年生の英会話教室・英検対策講座・高校2、3年生対象校内予備校を実施した。なお、英語特別クラス在籍生徒は、英検対策講座を必修とした。夏季休暇中に夏期講習期間を設定した。スタディサプリを中1学年全体・高1英語特別クラスおよび希望者で導入し、各生徒の学力に応じた家庭学習に活用させた。	A	長期休暇中の講習、日常的な放課後の講習、土曜日のECC・校内予備校等の取組が定着してきた。今後、各学力層に応じた講座の設定、内容の一層の改善をはかる。
			3. 生徒の学力を正確に把握し評価する。	学力把握のため、定期考査以外に実力考査を学期ごとに年間3回実施した。また、定期考査以外での評価も積極的に行うことにはたらきかけようとした。さらに学習意欲の向上をはかるため、英語検定やTOEIC、漢字検定などを実施した。	B	実力考査や定点観測から把握できる生徒の状況に応じて、講習やその他の方法による対応を具体的に進めていく必要がある。
			4. 体験的・問題解決的な学習を展開する。	総合的な学習の時間で自主的な調べ学習、体験的・問題解決的な学習を展開した。高2修学旅行、高3BlueEarthProjectなど、校外でのさまざまな体験、事前学習等の機会を設けた。アクティブ・ラーニング等、能動的な学びについての研究を進めながら、具体的な実践に取り入れてもらうよう促した。	B	総合的な学習の時間の取組において、生徒が主体的な学びを実践できるように各学年で改善を加える。アクティブ・ラーニングについては引き続き研究を進めながら、具体的な実践を少しずつ促進していく。

	研修	教員の研修	教員の資質を向上させるため適切な研修を行う。	授業公開期間を設定し教員研修を行った。特に3学期にはアクティブ・ラーニングの研究授業を各教科で設定し、全教員に告知した。各教科でのふり返りも設定した。また、教員に各自で学外の研修会に積極的に参加するように促した。	A	継続して授業公開期間を設定する。 アクティブ・ラーニングを実践した研究授業やスタディサプリを利用した研修を定期的に設定する。 外部研修会にも積極的に参加することを奨励する。
	国際理解教育	国際交流と国際理解	適切な国際交流行事を行い、他国の歴史や文化に対する理解を深める。	1学期はマリスト国際学校が来校し、英語で交流した。夏休みには姉妹校の韓国・聖明女子中学校が来校し、中学生が交流した。夏休み前半に中3・高1・高2を対象にニュージーランドのセント・ピートズスクールへ短期語学留学を実施した。事前学習としてニュージーランドの歴史・文化学習を行った。夏休み後半に姉妹校である韓国・信明高校を高校生が訪問し、授業参加、ホームステイなどを体験させた。3学期には信明高校が来校し、授業参加やホームステイを体験した。セント・ピートズスクールとの交換留学プログラムがスタートし、第一回目の交換を春休みに行う。	B	1学期はセント・ピートズスクールが来校し、ホームステイと授業参加を行う。オハイオ州立大学、聖明女子中学校の来校も予定している。夏休みのセント・ピートズスクール、信明高校、聖明女子中学校への派遣に向けて事前学習を行い、ニュージーランドと韓国の言葉や文化の理解をさらに深める。3学期には信明高校が来校し、ホームステイ等を通して交流を深める。留学団体を通しての留学生受け入れ、マリスト国際学校を始めとする他校との交流、セント・ピートズスクールとの交換留学も引き続き行う。
	芸術文化教育	芸術鑑賞行事	適切な芸術鑑賞行事を設定し、実施する。	2016年は音楽（打楽器演奏）鑑賞会を行った。パーカッションクラブ大阪に上演して頂き、音楽の奥深い可能性を感じさせ、その楽しさを体験させた。大変興味深い内容で、生徒達も楽しむことができた。	A	来年度は「その他」がテーマの年となり、京劇の鑑賞を企画している。 今後、生徒数減少のため、全学年が講堂に入る人数になった時に本校講堂を使用して実施することも考えていかななくてはならない。
	学校行事	適切な学校行事の設定	さまざまな学校行事において、生徒の運動能力や自主性を高めることをめざす。	運動能力向上・自主性向上のため、学校行事として、体育祭・球技大会（年3回）・春の遠足（登山）・中2海洋キャンプ・中3九州修学旅行・冬休みスキーキャンプ・中1キャンプ・高2東北修学旅行等を実施した。その他の学校行事として、文化祭・バザー・秋の校外学習などを設定した。	B	行事がたくさんあり、それぞれの行事に生徒も教員もかなり力を入れている。ただし、学年によっては行事過多になっている部分もあり、企画・運営に困難を生じている。年間の各種行事のバランスを検討することが、今後必要である。

## 生徒部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
生徒部	生活指導	服装規定の遵守	・正しく制服を着用し、頭髪も自然のままにしておく。	担任・学年を中心に指導する。その上、違反者の生徒を生徒部でも指導する。 頭髪については「長い髪の毛をくくるよう心がける」の指導を積極的に行う。	B	生徒部が中心で動き、各学年での指導・取り組みをサポートをさらに続け対応していく。
		登下校のマナー	・交通ルール及び車内のマナーを守らせ、寄り道をしないようにさせる。 ・あいさつの励行	関係機関と連携し、登下校指導の実施、及び補導活動（列車補導も含む）を定期的実施する。 教員が積極的にあいさつするよう心がける。	B	今後も関係機関と連絡を取りつつ情報収集し、適切な対応を行う。また、登下校指導を継続し生徒に自覚を促す。
		紛失・盗難の撲滅	・教室の戸締めの徹底及び貴重品の管理を徹底する。	移動教室の際は、戸締めをさせ、貴重品（携帯電話や財布）は担任が預かる。クラブ活動における貴重品管理を各部徹底する。また、校内を巡回し紛失・盗難を未然に防ぐ。	A	貴重品のクラス、クラブでの管理の徹底を継続する。また、学内へ高額な金銭を持ってこないような指導を続ける。
		各種講演会の実施	・スマートフォン、携帯電話の正しい使い方を身につける。 ・インターネット、SNSの利用について正しい知識を身につける。 ・薬物に対する正しい知識を身につけ、自分自身の身を守る。	・「ソーシャルメディア」、「薬物乱用」に関する講演会を年1回開きそれぞれの持つ危険性をうながす。 ・スマートフォン・携帯電話を朝礼で預ける。SNSなどの不適切な書込については、スクールデイトンを通じ、随時指導する。	A	講演会を継続して続け、全国で起こっている「SNS被害」などの情報を適宜伝達する。スマートフォン・携帯電話の使用方法については校内だけでなく、家庭でのルール作りをうながす。
		校内美化・清掃の推進	・トイレ・教室の使用マナーの向上 ・毎日の清掃活動の徹底 ・各行事の美化委員の役割	・使用マナーを呼びかける。 ・毎日の掃除に拭き掃除を取り入れる。 (机・イス・窓のさん・柵・傘立て・ロッカーの上・黒板のみぞ・黒板クリーナー等)	A	委員が校内美化に関して、向上心をもって取り組んだ。体育祭後の教室前ぞうきん待機を徹底した。また球技大会後に、廊

生徒部	美化指導		分担と大掃除の実施	・文化祭、体育祭、バザーのとき、美化委員は仕事を分担し、美化に努める。		下・階段などの共有部分の掃除分担を実施する方向で動き出した。
		ゴミの減量化・分別の徹底・リサイクル活動の推進	・ゴミの減量化 ・ゴミの分別 ・ペットボトルのリサイクル活動の推進	・できるだけゴミを出さないよう呼びかける。 ・どうしても出るゴミは分別する。燃えるゴミは小さくして捨てる。段ボールや古紙などは倉庫へ運びリサイクルに役立てる。 ・教室のペットボトルは掃除当番がゴミステーションに持って行き、処理する。美化委員はリサイクル処理を、火曜日と金曜日に行う。	B	ゴミの減量化や分別について、昨年と同様、継続して呼びかけた。学期末の荷物の持ち帰り（教室、部室、ロッカーへの放置禁止）についても、徹底させるべく取り組んでいるが、教師の呼びかけ、チェックも必要である。
	生徒会指導	生徒会活動の活性化	生徒会活動に興味・関心が湧くようそれぞれの活動に工夫を凝らす。	エコキャップ運動・あいさつ運動などの継続。 校外清掃活動の回数の増加。 暴走族追放キャンペーンやあしなが奨学募金など外部のボランティア活動への積極的な参加。	A	継続してキャップの洗浄、梱包発送がスムーズに行うことができた。一般の生徒に対するさらなる啓発のための工夫があると良い。
		学校行事の充実	体育祭・文化祭をよりよいものに変えていく。	体育祭運営をよりスムーズに行う。 競技やグループ分けについて検討する。 グループ内での一体感を持たせる工夫をする。 文化祭はテーマに基づき、それぞれの舞台演技・展示の充実を図る。 その他学校行事において積極的に参加するとともに生徒会としても生徒の自治能力を向上させる。	A	体育祭では、4色のグループTシャツを作った。夏休みには生徒会の合宿を行った。種目については、騎馬戦（H3）を変更し、より安全により楽しく行えるようにする。文化祭では、発表する生徒だけでなく、観客側となる生徒の活動が有意義になるようにしたい。
		各委員会の積極的な活動	評議・執行・美化・保健・特別の各委員会に目標を持って生徒主体の活動を目指す。	評議委員会等の連絡が円滑になるよう工夫する。 ゴミの分別を確実にを行う。 生徒会関係冊子の充実に努める。	A	事前の連絡等が遅れる場合があるので、教員生徒両方にしっかりと連絡できる工夫をする。外部関係機関と連携しマナーアップキャンペーンや暴走族追放キャンペーンなどに積極的に参加した。
生徒部	安全教育	防火管理体制を整え自衛消防に努める	年3回の避難訓練の実施を目標とし、教職員および生徒の防火意識を高める。	生徒に連絡する訓練と抜き打ちでする訓練とを行い、それぞれの場合できちんと避難できるようにする（地震発生を想定した訓練を含める）。また、教職員対象に火災報知器訓練を行い、各教職員が対応できるようにする。	A	本当に緊急の避難が必要になったときに、各自が落ち着いて避難行動をとれるように啓発をおこない、あらゆる状況を想定させるようにする。
		校内危機対応意識を高め、不審者の対応に努める	それぞれの役割を把握し、不審者対応講習を行う。	中学1年生に防犯教室を実施する。また、教職員は、校門指導・下校指導と連動し、不審者から生徒の安全を確保する。	A	不審者を確認した場合、すみやかに通報しその場を離れて安全を確保させるようにする。
		全校生徒（特に自転車通学者）への安全の意識を高める	全校生徒を対象に年1回の講習を行う。	自転車通学者リストを作成し、交通安全講習会を行う。講習会は、外部講師に依頼し講習をおこなう。登下校時の交通安全意識を高める。	A	スマホの普及により、自転車に乗りながら危険な行動が増え続けている。加害者・被害者にならないように啓発する。
		応急処置の意識を高める	緊急時に正しく的確な応急処置ができるようになる。	年一回、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行う。継続的に講習会を行うことで、より新しい情報を取り入れ、各教職員の応急処置の技術・知識を向上させる。	A	AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行った。また救急インストラクターの資格を3名取得した。より新しい情報を教職員に普及していく。
	性教育	実態に応じた性教育の推進	性についての知識の浸透を図り、教科・学年と連携をとりながら、目標を掲げて取り組む。	中学1年・2年・3年生、高校2年生に性教育講演会を実施する。性に関する問題・現状を知り、思春期の心身の発達を理解する。	A	中学2年生・高校2年生は、マナ助産院・いのち語り隊に依頼した。中学1年生・3年生は、神戸市の思春期ヘルスケア専門職によるデリバリー授業を実施した。また来年度は、中学2年生の講演会を変更する予定で検討している。

## 宗教部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
----	----	------	------	------	----	---------

宗教部	日常礼拝の実施	お話当番表の作成	各学年等にお話の当番をスムーズに割り振る	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事等の時期も考慮に入れ、副校長や当番学年へ事前連絡をし、担当美を決めてもらった。</li> <li>文化祭・体育祭後に写真部の協力によりメモリアルスライドショーを行った。</li> </ul>	A	さまざまな良いお話をさせていただいた。今後もより多くの人にお話ししていただけるよう、呼びかけていく。
		オーガニスト当番	学校行事や式典のオーガニストを手配し、聖歌番号を連絡する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や式典が決定し次第、オーガニストを手配した。</li> <li>できるだけ早くに聖歌番号を決定し、連絡した。</li> </ul>	B	震災記念礼拝を今年度は、講堂で行うことを決めたが、オーガニストの手配を忘れていた。(石丸先生に依頼)
		オルガンレッスン	オルガンレッスン生を適宜補充し、定期的にレッスンを実施していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生のレッスン生を補充するため、オーディションを開催し、2名が合格した。</li> <li>チャペルでのレッスン(基本、月1回)と聖ミカエル教会でのレッスン(基本、学期に2回)を行った。</li> <li>レッスンの成果を発表する機会として、1学期終業式の日にはチャペルコンサートを開催した。</li> </ul>	B	講堂のオルガンの調子が悪くなり、3学期のレッスンを講堂のオルガンで行った。今後、修理・買い換えを検討中。
		生徒の参加に関する指導等	礼拝においてオルガンレッスン生による奏楽の奉仕を定期的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>礼拝前に黙想を行い、オルガンの奏楽をもって礼拝を始めることができた。</li> </ul>	A	早めに講堂へ集合させ静かに礼拝の準備をさせることができてきた。
特別礼拝の実施	説教者の選定	ふさわしい方を選定依頼する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年は「共に生きる」をテーマに、いろいろな方面から説教者をお願いして有意義な話をさせていただいた。</li> </ul>	A	テーマに沿った説教者を選定できるよう、普段から人脈をつくり、情報を集めておく。	
	オルガニスト・聖歌隊手配	活動依頼が決まり次第、連絡し依頼する。あわせて聖歌についても決める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事等への活動依頼が決まり次第、連絡を依頼した。聖歌についても早い時期に決めて連絡した。</li> </ul>	A	各方面と連絡を密にとって、これからも継続したい。	
	式次第・式文の作成	説教者や聖歌隊と連絡を取り式次第・式文を作成した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各々の式にふさわしい選曲、聖句やお祈りなどを選択できた。</li> </ul>	B	印刷作業など、部員で協力していけるようにしたい。	
宗教週間の諸行事実施	各種プログラムの企画立案	生徒が参加したくなる、そして宗教週間の主旨にあうプログラムを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>にじ作業所のパンの販売などの企画を中高別日に設定し、混乱を軽減させ実施した。</li> <li>図書館との協賛でブックリサイクルを行った。</li> <li>聖ミカエル教会をはじめ外部の教会バザーの参加者も募り、行った。</li> <li>近隣の教会の牧師を招いてクラス講話を行った。</li> <li>九州・大分熊本の地震に対する復興支援としてバザーを学校説明会の日にはボランティアを募り、実施した。</li> </ul>	A	今後も情報宣伝活動をより積極的に行い、多くの生徒の参加を促していきたい。また、新たな企画についても立案・開拓していきたい。	
その他礼拝	参加自由礼拝の企画	親しみやすい集まりを持ちキリスト教に興味を持ってもらう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の礼拝、お誕生日礼拝、逝去者記念礼拝、震災追悼記念礼拝、キャンドルサービスなどを行った。</li> </ul>	B	これからも積極的に生徒へ呼びかけて、広めていきたい。また、キャンドルサービスなど、より親しみやすい礼拝をめざして、新たな改革を行っていきたい。	
各奉仕活動の実施	特別養護老人ホームきしろ荘の訪問	施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになるよう、プログラムを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回の喫茶ボランティア、クリスマスの飾り付けを企画・実施した。</li> <li>一般生徒に礼拝やポスター掲示により呼びかけ、募集した。また、関係クラブについても協力を呼びかけ、参加してもらった。</li> </ul>	A	積極的に参加していた。また、茶道部の部員も積極的に参加し、協力してくれた。	
体験学習の実施	真生乳児院の育児体験	施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになるよう、プログラムを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1・2学期、年2期(約10回)の育児体験を企画・実施した。</li> <li>一般生徒に礼拝やポスター掲示により呼びかけ、募集した。</li> </ul>	A	参加生徒は積極的に活動していた。今年度は少し希望者が減ったことが気になる。今後も情報宣伝活動をより積極的に行い、多くの生徒の参加を促していきたい。	

人権教育活動の実施	生徒向けの人権研修の企画立案	今の社会をとりまく諸問題について、的確に生徒に伝えることができるよう企画立案する。	・5月に、人権講演会（ちゃんへん パフォーマンスと講演）をH2・H3生徒を対象に行った。 ・生徒向け人権映画として『母と暮らせば』を鑑賞し、ミニ感想文を書いてもらった。また事前の礼拝において、映画の解説および関連したお話しを行い準備した。	A	生徒からの感想も率直なもので好感触であった。今後もさまざまな啓発を続けていきたい。
	啓発文書の作成	大切なことをわかりやすく伝えていく。	・人権映画鑑賞にあわせて映画の解説・見所などを掲載した『チャペルニュース』を発行した。	A	
	教職員向けの人権研修の企画立案	教育を行う上で大切な人権感覚を養うことができるよう企画立案する。	教職員人権研修会として、「みんなの学校」の映画鑑賞を行った。	A	今後もさまざまな形で、啓発活動を続けていきたい。
宗教教育に関するプログラム実施	様々な場面で行う宗教教育プログラムの企画立案	キリスト教に対する興味関心を持たせるとともに、さまざまな人との関わりを共感することができるようなプログラムを企画立案する。	・神戸教区主催の広島平和礼拝に参加するプログラムを企画したが、募集が集まらなかった。 ・九州・大分熊本地震の被災地支援キャンプを企画した。 ・教会の礼拝やバザーに参加した。 ・聖ミカエル教会でオルガンレッスンをを行った。	B	少しでも多くの生徒が参加してくれるよう、今後も情報宣伝活動をより積極的に行い、生徒の参加を促していきたい。
啓発文書の発行	「青谷」編集発行	キリスト教に関連する意見や思いだけでなく、幅広く教職員・生徒の思いを収集し編集していく。	・さまざまな方々に広く原稿依頼を行い、発刊した。 ・生徒の感想なども多く取り入れた。	A	概ねスムーズに原稿が集まった。宗教部の活動を広く教職員で共有できるよう、今後も務めていきたい。
	「チャペルニュース」の発行	定期的に、宗教部の行事や活動報告を行い、生徒へ情報を伝える。	合計9回、発行した。	A	行事、活動報告だけでなく、広くキリスト教のことを伝える記事も掲載していきたい。
	「聖句」の教室掲示	教室掲示により聖書に親しみ、多くの箇所を紹介する。	・月1回の発行を目標に作成するはずであったが合計7回、教室掲示を行った。 ・聖書の箇所の解説をチャプレンに依頼し、聖句と共に掲示した。	B	月1回の発行を目指して、今後も聖句を選び、生徒に浸透させていきたい。
関連諸団体との連携	献金・人的支援・その他	関連諸団体及び彼ら関わっている現場の状況を把握し、適切な支援を考えていく。	・東日本大震災や九州・大分熊本地震、エクアドル地震の被災地支援、ワールドヴィジョンジャパン（ルワンダの少女の就学支援）、宗教週間の特別礼拝講話者の関係施設（聖公会生野センター）に献金した。	A	必要とされる所に献金、人的支援をこれからも続けて行っていきたい。

## 総務部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
総務部	住所管理	個人情報の管理	住所等個人情報を正確に把握する。	年度初めに各担任を通じて住所等の確認を行った。変更の書類が来た際は写しを取り、ストックする。書類は事務所の担当係が打ち込み、随時、総務部係がチェックした。	B	事務室から受け取った写しの整理に努める。 住所録作成時のミスがないようにダブルチェック体制をとる。
	校内施設	各教室の管理	教室の机・椅子の数の把握。	施設管理職員と連携し、不良品や修理の必要なものを適宜交換した。	B	教室の机などを定期的に点検して、早めに発注計画を立てる
		空き教室の有効利用	放課後校内で行われていることから（部活動・補修など）を掌握する。 長期休暇中の教室利用を調整する。	通常利用一覧表と、月ごとの「放課後教室利用一覧」を掲示し、各責任者に記入してもらった。 電子黒板が設置されている教室の空き状況一覧を作成し、授業で使用できるようにした。 長期休暇中については、事前に教室使用希望調査をおこない、調整した。	B	通常活動場所一覧の更新を定期的におこなう。 教室配置の変更に合わせて、記入しやすい表を作成する。 長期休暇中の工事予定を勘案し、利用表を作成する。
		施設使用状況の把握	校内施設の使用状況を各部署に連絡する。	月末に職員室、事務所、施設管理職員、守衛の4部署に使用状況一覧を配布し、周知をはかった。	A	校内イントラネット及び会議録で各部署の利用予定を掌握する。
	不良箇所の補修	施設管理職員・事務部との連携を心がけて速やかに対処する。	できるだけ早く施設管理職員に連絡を取るようにした。必要な場合には業者に修理を依頼してもらった。	B	定期的に、校内の見回りをする。	

情報機器管理	情報機器管理	パソコンの設定・管理を随時おこなう。 無線Lan環境を整備する。	新職員室及び講師室のネットワークの管理をおこなった。 無線Lan環境を整備した。 ICT関連の将来計画を検討した。	A	ネットワークのセキュリティ面で問題がないか、日常的に検証をおこなう。 数年先を見越した新たなシステムの計画を立てる。
管理・美化	校具・消耗品・清掃用具等の購入・分配	清掃用具・備品の補充、補修を適宜行う。必要な備品の検討・購入	生徒の清掃に関わる品物を総務部が購入、必要に応じて分配した。	A	定期的に在庫の点検をして、計画的にまとまった量を購入し、コストダウンを心がける。
	事業系ゴミの排出	ゴミを分別回収する。学校を清潔にするように努める。	指定ゴミ袋に分けて排出した。古紙類・ペットボトルなどは業者に回収を依頼した。産業廃棄物などは業者にたびたび依頼して排出した。	B	紙類の無駄が出ないように工夫するとともに、印刷ミスした紙等の再利用をおこなう。 その他、ゴミの削減に努める。
視聴覚機材	視聴覚機材の管理・購入	備品を管理し、計画的に購入する。	電子黒板のメンテナンスをおこなった。 必要な時に機材がすぐ貸し出せるよう視聴覚室を整理した。 不調の書画カメラを随時交換した。 ブルーレイ対応のDVDプレーヤーを新規購入した。	A	視聴覚室の整頓を徹底する。 ICT機材の導入の将来計画を検討する。
広報	ホームページ(学校の広報)	分かりやすく、情報を探しやすい内容になるように努める。 定期的に更新する。	各学年や記録係との連携をすすめ、学校行事など内容をできるだけ早く更新した。 情報を見やすくすることを心がけた。 トップページのレイアウト等をリニューアルした。	B	少ない操作で見ることができるように改善する。 長期間更新されていない内容を削除する。
	ハンドブック(校内のルール・約束事の周知)	訂正ゼロを目指す。	各部署に原稿の作成(訂正)を依頼し、3月中旬に納入できるよう努めた。	A	変更点や追加点はハンドブックに関わるかどうか、その都度確認する。
	学校報(一年間の学校の記録)	記録として分かりやすい内容にする。	1年間の正確な記録を集め、一学期末の発行に努めた。	A	写真や資料を積極的に活用する。 各学年に積極的に働きかける。
資料	写真などのデータの一元化、資料の整理・保存	学年で撮影した写真のデータを集約する。また、資料を計画的に保存する。	写真データ収集を各学年に依頼した。 VHSテープを業者に依頼し、DVDで見られるようにした。	A	古い資料の整理を進め、体系的な整理に努める。今後の資料の整理・保存についても検討する。
総務・渉外	業者との連絡依頼を速やかにする。	依頼を受けた後できるだけ早く対応する。	業者と連絡を密に取るように努めた。依頼を受けた部署に対しては結果報告に努めた。	B	施設管理職員・事務部と連携をはかり、仕事を円滑に進めるよう努める。
	式典・学校行事	職員との連携をはかりつつ、会場等の準備を適切に進める。	設営等は職員にあらかじめ依頼内容を添付し、作業してもらい、終了後点検を行った。	A	設営作業がスムーズに行くように式典前の施設利用に気を配る。
	バザー	当日に至る準備、生徒・教職員に対する内容の周知をはかる。	リユース食器の利用、レンタル器具の活用、PTAや同窓会、ゴミ回収業者との打ち合わせを密にすること等を心がけた。 食品アレルギーに関して、特定原材料(7品目)の表示について、漏れがないように、チェック体制を整えた。	B	食品アレルギーに関して、特定原材料(7品目)の表示漏れがないように、チェックに努める。 ゴミそのものが少なくなるようなバザーの在り方を検討する。
	緊急連絡網の補い	休校などの緊急連絡が円滑に回るよう努める	各学期にテストメールを配信した。 必要な場合、メールによる緊急連絡を実施し、未到達者に対しては、電話で連絡した。	B	配信エラーとなる者に対して、対処マニュアルを配布し、再設定をお願いした。

## 進路指導部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
進路指導	進	進路指導体制の充実	目標や夢を持つことと、目標達成に向けて努力していくことの大切さを伝える。	高校につながるように。中学段階での進路指導を継続した	B	総合の時間の柔軟性のある使い方が不可欠。
			中高6年間のそれぞれの発達段階に応じ、進路指導部と学年が連携しつつ、体系的な進路指導を実施する。	各学年の進路指導部の教員を中心に、進路指導部の体系的な指導の実現を図った。	B	各学年の進路指導部員を中心に、部との連携を持って、年間計画を進めている
		総合的な学習を利用して、学問・大学研究をし、高校卒業後の進路に付いて早期から考える。	高1総合学習の時間をはじめ、進路学習を系統的に行った。	A	中3や高2の総合の時間も生かして、継続的な進路学習を行っている。	
	路	進学指導の充実	実力考査の定点観測を行い、進学指導に生かす。	実力考査における、同一学年の推移及び過去データとの比較を行い、定点観測結果を学校内で共有した。	B	定点観測の結果を積み重ねていくと共に、個々の指導の助けにつなげていくことが必要。
			実力考査の計画的な実施	高校3学年の実力考査を、春の段階で進路指導部が、時期と業者を決めて学年に伝えた。	B	学校行事と模試日程の関係から、効果的な定点観測が難しい状況。
			キャリア教育の充実	受験指導だけではなく、大	高1で、話し合ったり、共に考えたり、	B

部	部	学のさらに後の社会での生き方を考える機会を与える。	発表したりということに、取り組む機会を増やしたが、生徒達は前向きに取り組んでいた。		者を増やすことが課題である。
		職場体験をすれば勤労意欲の向上というような単純な考え方をせずに、創意工夫して、社会や自然とのつながりを実感しつつ、その後の人生で生きていく力につながるような気づきの機会を与える。	Blue Earth Project は今年も充実した内容を実施し、生徒達は前向きに活動した。Blue Earth Project は、特色ある教育活動として、全国に広がっている。	A	社会的にも評価を得て、ノウハウや協力先を構築しているこの教育活動を、今後も継続していけるように、少しでも多くの教員に指導スキルの継承が重要。

## 入試広報室

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
入 試 広 報 室	生徒 募集  関連 事項	オープンスクール	小学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	食堂利用、パンの販売、制服試着コーナーを実施。低学年の方には、図書館で在校生とのレクレーションを企画した。	B	他校の説明会・イベントと日程が重複。 日程を変更する。
		学校説明会	主に小学6年生保護者に対して入試の詳細について伝達し、併せて受験意志を固めさせる。	9～11月に3回実施し、礼拝も含め本校の教育内容を的確に説明した。	B	3回すべてで制服試着コーナーを実施。2回目に英語学習セミナー、3回目にクッキング体験を実施した。
		授業見学会	土曜日の学校説明会では授業見学ができないため、平日に授業見学を実施。	6月の平日、ご予約不要で実施。	B	ホームページなどで、授業見学会を実施していることをより知っていただく。
		クリスマスの集い	冬のオープンスクールのイベントとして小学生に本校のキリスト教主義学校としての雰囲気を体験してもらう。	小学生のみなさんに楽しんでもらうこと、が一番の目的。そのために、事故がないように注意した。	B	ご参加の人数が減っている。 午前実施し、出演クラブを一部変更したが、まだまだ改善が必要。
		入試結果報告会・学校説明会	6月の芦研模試会場で、もっと学校生活を知っていただくために説明会を実施した。	早い時期から松蔭に興味を持っていただき、オープンスクールにご参加いただけるようにする。	B	ご参加いただいた方がお知りになりたい内容を的確に説明する。
		日曜日の学校説明会	ふだんの学校説明会と違って、より身近な内容の説明会にする。	学年主任・クラス担任の教員、卒業生(大学生)、保護者の方から松蔭についてより身近な話を聞いていただいた。会場もアットホームな雰囲気を出すために図書館にした。	A	内容については、他の説明会よりも好評。
		外部説明会	遠方にお住まいの方に、松蔭のことを知っていただく、興味を持っていただく。少人数できめ細かく対応する。	10月に宝塚・加古川・西神南、三田で実施。 通学方法や定期代など、より具体的な説明をした。	B	ご参加の人数は多くないが、実施場所を検討し、つづけていきたい。
		校内個別相談会・学校見学会	入試直前の12月に校内での説明会を企画し、受験生・保護者への最後のアピールを行い、志望校未定者を志願、受験につなげる。	個別ブースを設置、また資料コーナーを設けた。ご希望の方には施設見学も行った。 願書も受け付けた。	B	ご参加の人数は多くないが、この時期に併願校をご検討する方もいらっしゃるのをつづけていきたい。
		学外のブース式説明会	主に保護者の方からの質問に効果的に答え、ご来校いただけるようにする。	疑問・質問に対して的確な説明を心がけた。兵庫県の女子校による「女子教育セッション」を学校共催イベントとして企画・実施した。8月の私学フェスティバルには生徒も出演した。	B	保護者の方と直接話す機会を増やして、現場教員の「顔」の見えることをより可能にしていく。 多くの説明会で来場者数が減ってきている。
		学外の講演形式説明会	受験意欲を喚起し、校内での様々なイベントへの参加を促す。	塾主催等の会で松蔭の教育内容や特色が的確に明示される内容を企画した。 3月に「神戸東地区4校合同説明会(神戸海星・甲南女子・親和)」を実施した。 9月に塾主催の帰国子女対象の海外での説明会に参加(バンコク、香港)	B	特に他校との合同説明会では、松蔭の特色が際立つプレゼンテーションを目指した。

		ジュニア・イングリッシュ・デイキャンプ	英語に親しみ、松蔭を知っていただく機会として実施。	外部の先生方にご協力いただき、楽しみながら英語を学習。昨年、募集定員がいっぱいになったので、午前・午後の2部制にした。	A	2年つづけて参加することもあるので、同じ内容にならないよう工夫する。
		個別の学校案内	個別に案内する機会を持ち丁寧な対応によって教育活動を紹介する。	訪問者に対する学校側の窓口として適切な対応を心がけた。	B	個別見学の申し込みをしやすくするよう、HPに申し込みフォームをつくる。
		プレテスト プレテストアドバイス会	入試本番へ向けての練習として、また、松蔭に興味をもつていただく機会として実施する。	アドバイス会でフォローすることにより、受験へ向けての不安な気持ちを和らげる。	B	多くの小学校の行事と日程が重複したため、ふりかえ受験日を設定した。日程の検討が必要。
		高校入試説明会 高校入学相談会	高校専願入試についての説明、また、松蔭を知っていただくための説明会。	制度を詳しく説明した。特に途中入学への不安について。	B	高校入試を実施していることを、もっと広く知っていただく。
		オープンハイスクール	中学生、その保護者の方に松蔭をより知っていただく機会として実施。	在校生と話す機会をより多く設け、直接、細かなご質問をしていただけるようにした。	B	より多くの方にご参加いただけるよう広報していきたい。
情報提供 関連事項		学校案内冊子など	教育内容、卒業後のイメージを的確に伝達できるようにする。	現在の教育活動や校風が的確に表現されるようにした。	B	松蔭の教育の特徴がはっきりとわかるようにする。
		DVD など視聴覚物品	在校生の様子を的確に伝達する。	放送部に学校紹介DVDの作成を依頼した。	B	なるべく多くの方に配布する。
		中学受験雑誌記事など	松蔭での教育活動を的確に伝達する。	記事原稿作成に協力した。	B	積極的な広報を行う。
		新聞雑誌記事掲載など	松蔭での教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	教育活動の紹介手段の1つとして積極的に掲載依頼を行った。	B	積極的な広報を行う。
		新聞雑誌広告・看板	松蔭での教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	神戸市バスの六甲道の時刻表に加え、2系統のバス3台に広告を出した。	B	より効果的な広告を検討する。
		学校ホームページ	入試広報活動の一環として受験を検討する資料となるような内容を提供する。また入試広報イベントの告知・申し込みなどに活用する。	「入試ガイド」のページを中心に入試関連情報・イベント日程などを掲載した。	B	外部説明会など細かく情報を出し、より見やすくなるように工夫したい。
		ノベルティグッズ等	小学生が魅力を感じるグッズの提供をはかる。	文房具セット	B	松蔭の特色に合致したグッズで、小学生に喜んでもらえるものを検討する。
学外教育機 関への広報		塾訪問	大手・中堅塾を中心に関係を深め、より多くの塾生に松蔭を知ってもらう。	年間を通じて複数回の訪問を実施し広報・入試相談を行った。	B	引き続き訪問活動をすすめるが、ただ訪問するだけでなく、内容を伴ったものにする。
		塾対象説明会	教育内容を説明し、通塾生、その保護者の方に松蔭を知っていただく。	9月に実施。高校入試についても説明。	B	ご参加人数が減少してきている。塾の先生方にも興味をもつていただけるように工夫したい。
		模擬試験会場	受験生・保護者の方に松蔭を知っていただく機会とする。	試験実施中に説明会を実施。	B	プレテストを実施するようになり、模試受験生が減ってきている。今後、実施を検討。

## 読書運動委員会

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
図書教育	読書指導	生徒が読書の習慣を身につけるよう、指導する。	全校読書運動（第47回）  読書感想文作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書運動委員会で今年度の全校テーマを決める。2016年度は「迷い」。</li> <li>テーマにそって、各学年で具体的な課題を考案。</li> <li>教員による推薦図書リスト、紹介文をプリントにして配布。</li> <li>生徒たちは、プリントを参考に本を読み、夏休みの宿題として学年ごとに設定された課題に取り組んだ。</li> <li>優秀作を図書館に展示。</li> <li>国語科の取り組みとして、各学年で課題図書を決め、感想文を書かせた。今年度は、感想文の書き方について授業でも取り組んだ。授業後生徒たちは、400字程度の下書きを作成、提出し、授業担当者がアドバイスを書き込んで返却した。</li> <li>感想文を校内読書感想文コンクール出品作として扱い、優秀作、佳作に選定され</li> </ul>	B	今年度も、どの学年も、生徒が興味を持てるような課題を設定してくれた。充実した推薦図書リストも出来上がった。また、「迷い」という言葉は様々な解釈可能で、思春期にある生徒たちに様々な種類の課題を提供できると考えた。 例年どおり、教員の思いに応じて、創意工夫をこらして積極的に課題に取り組んだ生徒が多く見られた。一方で、読書に興味を持ってない生徒もやはりいる。一人でも多くの生徒が読書好きになるように、さらに教職員の協力を求めたい。 具体的には、 ・日常的な推薦図書の紹介等、

			<ul style="list-style-type: none"> <li>た作品を表彰（11月アセンブリーで）。</li> <li>各学年の最優秀作品は、第44回兵庫県私学読書感想文コンクールに出品。今年度は、中学：特選1作、入選2作。高校：入選2作、佳作1作。中学特選1作は、県コンクール応募作品にも選ばれた。</li> <li>第47回全校読書運動冊子（読書運動の報告、読書感想文コンクール優秀作等を記載）を作成、配布した。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>読書指導の推進。</li> <li>個人の嗜好に合わせた情報の発信の可能性も探りたい。</li> <li>読書感想文、書評等の書き方の指導の充実。</li> <li>読書運動冊子の活用法の検討。</li> </ul>
		<p>ゴールドカード・プラチナカードの表彰</p> <p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この1年間に50冊以上図書館の本を読んだ生徒にゴールドカードを、中学時にゴールドカードを取得していて、さらに高校になって年間50冊以上図書館の本を読んだ生徒にプラチナカードを授与。1月アセンブリーで表彰（賞状とブックカバー）。</li> <li>中3、高3の卒業時、生徒個人に貸出記録を渡した。</li> </ul>	A	<p>たくさんの本を読んだ生徒を表彰したり、自分が読んだ本を確認させたりすることで、読書に対する興味をかきたてたい。左の取り組みは、今後も継続。</p>
	<p>生徒が図書館を有効に利用できるようにする。</p> <p>生徒がメディアリテラシーを身につけられるようにする。</p>	総合学習等の調べ学習の際の利用。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年総合学習等のテーマに応じた関連図書コーナーにまとめて展示し、わかりやすくした。必要時には、司書が説明。</li> <li>要請のあった教室へ、必要図書・関連図書の出前を行った。</li> <li>図書や資料の見つけ方、調べ方、マナーも含めてプリントにし、配布した。積極的な活用に役立ててほしい。</li> <li>自習時間の利用にも対応した。</li> </ul>	B	各学年、各教科とのさらに密な連携を図り、要望に応えるための工夫をする。
		図書館利用のルールを理解、遵守。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入生、転入生に対して、オリエンテーションを行った。</li> <li>日常的な利用に際して、きめ細かい指導を行った。</li> </ul>	A	時間不足気味なので、自習時間等、別の機会を見つけて補う。
		広報等	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館情報誌「はと時計」を発行。本の紹介をはじめ、図書館クイズを掲載し、各種イベントの案内をした。</li> <li>絵本ボランティア、しおり作り、カボチャのランタンづくり、クリスマス作り、読書みくじ、小学生対象の兵庫県学校図書館スタンプラリー等の各種イベントや、読書会を企画し、実施した。今後も実施していく予定。</li> <li>高3チャレンジプログラムの一環として、司書体験活動を実施した。</li> <li>ブックリサイクルの実施。宗教週間の活動の一環として、不要になった本を持参してもらい、売却した利益を寄付。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「はと時計」のますますの充実を目指す。</li> <li>積極的に楽しく活動できる機会を、さらに作りたい。</li> </ul>
選書	係による選書	生徒、教職員に必要とされる図書の充実。	<ul style="list-style-type: none"> <li>係による定期的な選書を行った。</li> <li>書店へ出向いての選書（全教職員、教育実習生対象）を企画、実施した。</li> <li>リクエスト本について、随時審議した。</li> </ul>	A	より多くの教職員からのリクエストが望まれる。さらに幅広い選書を目指す。